

令和3年7月13日

亀岡市議会議長 福井 英昭 様

産業建設常任委員長 赤坂 マリア

委員会調査報告書

当委員会で調査した事件の調査結果について、亀岡市議会会議規則第110条の規定により下記のとおり報告します。

記

- 1 派遣期間 令和3年7月5日（月）10:00～14:00
- 2 派遣場所 京都府南丹市
- 3 調査項目 森林整備について（日吉町森林組合）
- 4 派遣委員 赤坂マリア、奥野正三、田中 豊、小川克己
藤本 弘、木曾利廣、菱田光紀
- 5 概 要 別紙のとおり

視 察 概 要

◎南丹市視察

令和3年7月5日（月）10:00～14:00

<視察項目>

- ・森林整備について（日吉町森林組合）



赤坂委員長 あいさつ



日吉町森林組合 説明



現地視察



現地視察



現地視察



意見交換

京都府南丹市日吉町森林組合

視察項目	森林整備について
視察の目的 (本市の現状と課題)	<p>本市では、森林整備が急務となっているが、なかなか進んでいない現状がある。亀岡市が森林組合と連携して、亀岡市の森林整備を進める仕組みづくりが必要である。</p> <p>南丹市日吉町森林組合では、積極的に森林整備を進められており、亀岡市森林組合と連携できる部分を探るとともに、先進的な事例を学び、参考とするため視察調査を行う。</p>
視察項目の概要	<p>所有者が点在している小規模分散型の森林を取りまとめ、一つの大きな施業団地とすることが重要。また、林内路網と林業機械を整備し、木材生産コストを下げる必要がある。</p> <p>【日吉町の森林】10,700ヘクタール(人工林約4,100ヘクタール) 【日吉町森林組合職員数】20名 【協力事業体】6社 【年間間伐面積】200～250ヘクタール 【木材生産量】15,000立方メートル</p>
考察	<p>日吉町森林組合の取組を参考に、亀岡市と亀岡市森林組合が連携し、森林整備を推進できるように、調査・研究して取り組んでいきたい。</p>
各委員の意見等	<p>○日吉町森林組合長との意見交換会の中での亀岡市のデメリットに対する回答は、「亀岡市はあと10年で山の被害がひどくなる。しっかり事業計画を立てれば、年間2億円以上の売上げが上がる。ほったらかしすぎだ。」と厳しい意見もいただいた。やはり早急に亀岡市が森林に対する意識改革をしていくのと同時に組織力を上げて、しっかりとした事業計画を立てなければ、災害から市民を守れない。このことを重く受け止めて、各関係者が連携を取っていかなければならないと思う。</p> <p>○林業振興には本市は数段遅れている。日吉町森林組合の方から「亀岡の森林は宝の山である。しかし10年も過ぎると手もつけられないほど荒れる。今から林業振興対策をやるべき」との意見をいただいた。林業事業就業者の人材育成・森林組合の強化・協力事業体の補強・林業機械の増強等、本市が今後本気で林業振興を進めるのであれば、早急に取り組む必要があると考える。</p> <p>○日吉町森林組合長の話で、印象に残ったのが、①亀岡の山は、この10年に手を入れないとダメになる、②私から見れば亀岡の山は「宝の山だ」の2点である。説明いただいた組合長・課長の話などに山に対する熱い思いを感じた。亀岡市も亀岡の山をどうしていくのか、どのような山にするのかという構想・計画をつくることなどを早急に行う必要があるように思う。</p>

- 本市における人工林は、あと10年以内に間伐をしないとだめだろうという指摘もいただいた。防災面、有害鳥獣から田畑を守る観点からも荒れた里山を整備する必要がある。また、先人が植林された人工林が有効に活躍し利益が出せることを目的に、亀岡市森林組合とも連携し、ビジョンを策定しタイムスケジュール作成などを具現化していかなければいけないと思う。
- 森林を整備せずに放って置くと、大きな災害を引き起こす原因にもなりかねない。そこで大切なのが、個人の負担を軽減し、複数の山林の所有者を取りまとめて、林内路網と林業機械を整備し、木材の生産コストを下げるとともに、個人の所有者に利益を還元できるようにすることである。それには、優秀なプランナーが必要である。
- 亀岡の今後の森林整備には、ビジョンと計画、期間を決めて、いろいろな組織と連携して人材を育成し、森林所有者に負担のない森林整備、効率のよい機械化を進める必要がある。また、事業として成り立つように作業道の整備に努め、森林の素質を生かしながら育て、1年を通じて作業のできる、亀岡森林活性化プロジェクトプランの作成が早急に必要と考える。
- 森林整備計画の作成と計画に基づく事業実施に、早急に取り組まなければならない。このことを通して、人材育成と山林所有者の山林に対する意識を高めなければならない。これらの事業の進捗に合わせて、高度な機械導入への支援も必要である。